

事業の背景・目的

小笠原諸島は、海洋島として独自の進化を遂げ、今もなお進化の途上にあり固有種が多いことから世界自然遺産に登録されています。しかしながら、外来種に対しては極めて脆弱で多くの固有種が絶滅の危機にさらされている現状です。植物では環境省により国内希少野生植物について種ごとに保護増殖事業計画を策定し「自然状態で安定的に存続できる状態とすること」を目的として施策を行っていますがまだ、道半ばである。当会は、清瀬樹木園の管理者として希少種等の栽培を行ってきた経験を生かし、地元や各関係機関と連携しながら自生地に近い父島島内で希少野生植物3種の域外保全に取り組み、種の絶滅を防ぎ生物多様性の保全を図っていきます。

事業の内容

本事業は、小笠原諸島の父島に自生し保護増殖事業が策定されている国内希少野生植物9種のうち3種（ムニンノボタン、ウチダシクロキ、ウラジロコムラサキ）を対象に父島内にある森林総合研究所清瀬樹木園内圃場において個体の増殖を行い系統保存をする事で、遺伝的多様性を担保し種の絶滅を防ぐとともに野生復帰に必要な栽培技術の確率と生育条件等の科学的知見の集積を行う。

令和3年度事業
 ・挿し木、播種による増殖事業
 ・圃場実生のモニタリング事業
 ・講演会の開催

種名	挿し木数		播種数	
ムニンノボタン	27系統より	124本	7個体より	60粒
ウチダシクロキ	11系統より	45本	2個体より	2粒
ウラジロコムラサキ	4系統より	14本	1個体より	10粒

令和4年度
 事業

・挿し木、播種による増殖事業
 ・圃場実生のモニタリング事業
 ・新たな播種・植栽（野生復帰）の好適地検討事業

令和5年度
 事業

・挿し木、播種による増殖事業
 ・圃場実生のモニタリング事業
 ・試験植栽（野生復帰）事業

得られた成果

挿し木、播種による増殖事業では、苗が活着するまでもう少し時間を要する為、確定数ではないが目標数に近い個体の増殖作業を行った。ウチダシクロキの挿し木増殖においては、数年かかることも想定していたが発根した個体も数株あり、管理下における水分条件の違いによるものなのかももう少し継続したデータの蓄積が必要である。ウラジロコムラサキの播種試験においても発芽を確認し、生長過程での好適環境条件等を把握する為に異なる環境下で育苗してデータの集積を引き続き行なっていきます。今後は、野生個体群を補強するための試験や自生地播種用の種子親として活用できるような域外保全集団を作成するにあたり、雌雄のバランスや遺伝情報を考慮した増殖を行います。それとともに、なかなか一般の方の目に触れる機会の少ない希少植物の普及啓発活動も実施していきます。事業終了後は、ほかの希少種の域外保全にも取り組んでいきたい。